

企業の安定化に向けた入札制度

建設業の現状

公共事業は利便性だけでなく、人命や財産を災害から守るものです。その事業を担っている建設企業は、地域雇用や地域経済の発展等、社会的使命も担っています。

しかし、公共事業の当初予算額は、ピーク時の平成8年度の約1552億円に対し、平成27年度は約660億円と半分以下となっています。



問

公共事業の減少に伴い、低価格で応札せざるを得ないケースや発注も十分な平準化

が行われていないことから、第1・第2四半期は労働力が余り、第3四半期以降に労働力が不足する状況にある。建設産業の労働環境の改善を始め、一定量の受注額の確保や、計画的な受注ができる配慮が必要と考えるが、経営安定化に向け、どのように取り組んでいるのか。

答

労働安全衛生マネジメントシステムの見直し、受注機会を拡大する取り組みとして技術者一人当たりの受注工事高の評価。同種同規模の複数工事を同時に発注し、一括審査を行う取り組み。平準化する取り組みにおいては、稼働している工事の月別工事量で評価し均等となるよう努めている。

要望

三重県の平成27年度の落札率は87・7%と、全国平均値を下回ってはいるが、改善方向に

ある。しかし、市町は、低入札が行われるなど落札率が極端に低い。

「担い手3法」の改正に伴い三重県では、「発注機関連事務の運用に関する指針」遵守に

安全対策優先の道路整備を

一般国道166号線・松阪環状線の進捗状況

道路は、地域間を結び、地域経済の活動や、地域間交流災害時などの緊急車両の通行など、極めて大きな役割を担っています。ところが、公共事業の予算削減等に伴い、県内各地において工事途中で止まっている道路を多く見受けられます。

向け、市・町と「発注者協会三重部会」を立ち上げた。この場で、市町に対し適正な予定価格の設定、設計ガイドラインの作成などの情報提供を行っていただきたい。

答

田引バイパスは、残る約700メートルについて整備を進めており、約240メートルを、来春には供用したい。県道蓮峡線バイパスは、七日市地区の約1キロメートルを優先して整備を行うこととし、今年度は用地買収を進める。

県道松阪環状線は、近鉄跨線橋の詳細設計を行うなど、整備に取り組んでいきたい。

問

一般国道166号線は、松阪市飯高町川俣地区の約5kmが未改良で、車の対向すらできない、危険な状況となっている。

また、松阪環状線は、東黒部町の国道23号線と、豊原町の県道伊勢松阪線を結ぶ都市計画道路で、津波の避難経路や洪水時の堤防決壊の対策として、早期完成が望まれている。現在の進捗状況と今後の見通しはどうか。

要望

国道166号線は、今年度中学校が統合したことにより、通学の安全対策としても早期改良が望まれている。

松阪環状線は、大平橋が障害物となり、大惨事がつながる可能性がある。

県内各地においても、166号線や松阪環状線のような、同様の事例は多くあるように思われる。まずは、安全対策を優先した、道路整備の促進をお願いしたい。



一般国道166号線（飯高町富永地内）



松阪環状線（東久保町地内）



櫛田川と大平橋（東久保町地内）